

「すぐやる人」と「やらない人」の習慣という本からです

すぐやる人は 9000 回の負けを知り、やれない人は全勝を目指す。

「僕はこれまで 9000 本以上のシュートを外してきた。これまで 300 試合近くに負けてきた。決勝シュートを任されながら、外したことが 26 回ある。人生で何度も何度も失敗してきた。だからこそ、こうして成功しているんだ」これはあの有名なマイケル・ジョーダンの名言です。

誰でも失敗はしたくはないものです。失敗か成功かどちらか選べと言われれば、誰しも間違いなく成功を選ぶでしょう。ただ、失敗への恐れが成功への道を奪っている可能性は、十分にあります。

「すぐやる人」はリスクテイクです。リスクを怖いと感じないわけではありません。リスクを感じながらも、1つひとつ目の前の課題と真摯に向き合い、チャレンジします。シュートは打たなければ入らないのです。

エジソンは電球を発明したときに「私は失敗したことがない。ただ 1 万通りの、うまくいかない方法を見つけたただけだ」と言った話はあまりにも有名ですが、どの時代にも成功者はみな失敗を語ります。「やれない人」は成功するためには失敗も許されないと考えている一方で、自らの信じた道を突き進んだ「すぐやる人」たちは失敗というつまづきを災難のように考えません。その経験からたくさんのかんことを学べばよいと割り切っているものなのです。

私は、ミスや失敗の数だけ誰かの役に立てることが増えると思っています。私もかつてはたくさんつまづいてきました。高校生のときに、初めて全国紙に取り上げられてしまうような事件を起こし、警察や裁判所のお世話にもなるなんて思ってもみませんでした。うまくいかないことばかりで、周りに迷惑をかけることでしか自分の存在を示せないと感じていたものです。その過去があり、多くの人々に迷惑をかけてしまったことは、もちろん申し訳ないことだと今でも感じています。しかし、過去は取り戻せないわけですが、未来は変えられるのです。同じように未来が見えなくて、もがいている人たちの気持ちが誰よりもわかります。そして、経験してきたからこそ、気持ちを理解することもできますし、具体的な助言をすることもできます。つまづきや失敗をしたら改善すればいいのです。うまく改善することができれば、同じようなことでつまづき、悩んでいる人を助けることができるかもしれないのです。だから、こうだと決めてチャレンジして失敗してしまっても、私は何も恥ずかしいとは思いません。必ずその失敗があつて良かったと思える日が来ます。うまくいかない方法がわかったという学びがあるから、同じ過ちを繰り返さないようにすれば大きく前進できるのです。

失敗への恐れはあなたを麻痺させます。失敗は誰だって怖い。特にこの失敗に対する恐怖心は、私たち日本人にとって「先延ばしする」傾向の大きな原因となっているのです。短期的に見れば失敗は好ましいものではないでしょう。しかし、これだけ多数の「すぐやってきた」成功者たちが、口を揃えて過去の失敗について語るのには、必ず理由があると思いませんか。

もちろん、負けない勝負はあなたに安定と安心をもたらすので、負けない勝負を捨てる必要はないでしょう。ただ、負けない勝負だけではどうしても動きが遅くなってしまって、後手を踏んでしまいます。それは長期的に見たときには大きな損失となっていることでしょう。不安を感じられるということは、少なくとも未来がある証なのです。小さな失敗をたくさん楽しんでみましょう。

マイケル・ジョーダンはどうな名言をいいましたか？

()